

博士論文の要旨及び審査結果の要旨

氏名 CHEN Ying  
学位 博士(文学)  
学位記番号 新大院博(文)第57号  
学位授与の日付 令和2年9月23日  
学位授与の要件 学位規則第3条第3項該当  
博士論文名 現代中国語の動補構造に関する研究  
—— 方向補語を中心に ——

論文審査委員 主査教授 朱 継征  
副査教授 大竹芳夫  
副査 准教授 土屋太祐

博士論文の要旨

中国語において、「動詞＋補語」という述語構造は「動補構造」と呼ばれ、補語として使われる移動動詞は、「方向補語」と呼ばれる。方向補語は空間的移動だけでなく、時間的変化など、様々な意味を表す多義語の範疇でもある。方向補語となる移動動詞間の相似点と相違点に関する従来の研究は個別的であり、体系的に方向補語の全貌と本質を解明しようとする研究はまだ少ない。

本論文は、単純方向補語(“上”、“下”、“出”、“起”、“开”、“过”)と複合方向補語(単純方向補語＋“来”/“去”)を研究対象として、体系的に方向補語の使い分けと意味的相違を明らかにしようとしたものである。

本論文は次の7章から構成される。

第1章 序論

第2章 方向補語の表す方向義についての考察— “V下” を中心に—

第3章 方向補語の表す状態義についての考察— 「開始」を表す“～起来”と“～开”の比較—

第4章 方向補語の表す結果義についての考察— “～上(去)” を中心に—

第5章 方向補語の各意味間の関連性についての考察— “～过” を中心に—

第6章 複合方向補語の目的語位置についての考察

第7章 結語

第1章では、まず本論文の研究目的、考察対象となる方向補語構造の定義や分類、研究方法を紹介した。また、活用するデータベースと論文構成についても述べた。

第2章では、方向補語の方向義について分析した。“～下(来/去)+場所目的語”という方向補語構造の方向義を考察し、次の3点を明らかにした。1)場所が移動における高い所である場合、“～下(来/去)+場所”構造は事物の位置変化を際立たせ、〈+過程性〉の意味特徴を示す。2)場所が移動の経路である場合、“～下(来/去)+場所”構造は持続を表す副詞“在/正在”と共に起ることが可能で、〈+過程性〉の意味特徴を示す。3)場所が移動における低い所である場合、“～下(来/去)+場所”構造は移動後の位置状態を際立たせ、〈-過程性〉と〈+限界性〉という意味特徴を示す。

第3章では、「開始」を表す方向補語“～开(来)”と“～起来”の異同について考察し、多くの実例を分析した結果、移動動詞と共に起る場合、“～开(来)”は、「多方向」と「拡散」という意味要素を内包し、「移動の開始」を表すのに対し、“～起来”は「一方向」と「加速」を含意し、「変化の開始」の意味を表すこと、非移動動詞の場合、両者が表す開始の時点は異なることを指摘した。以上の考察により、「開始」を表す方向補語“～开(来)”と“～起来”の意味的相違と使用上の制約要因を明らかにした。

第4章では、方向補語の結果義について分析した。具体的には、方向義と結果義間の関連を中心に、“～上(去)”と“～下”、“～起来”それぞれを比較し、それらの意味的相違を考察した。まず、“～上+場所目的語”構造と“～下+場所目的語”構造が示す移動の生起を分析し、それらが示す事象の特徴をまとめ、両者は動作の構成が逆順になっていることを明らかにした。次に、“～上”と“～下”が「空間移転」・「痕跡形成」・「獲得行為」を表す場合に際立った部分の相違を指摘した。さらに、前項動詞(或いは形容詞)の特徴や性質に基づき、“～上去”と“～起来”それぞれが内包する意味特徴を解明した。

第5章では、“～过”を例として、方向補語構造が表す各意味機能の関連性について論じた。まず、“～过”の基本義である方向義は、「コチラ」から「アチラ」へ移転することを表すと指摘し、次に、“～过”の派生的用法である「完了義」と「経験義」は、「あの時」と「この時」という時間的要素を仕切る心理的境界線を想定し、その間を転移するというイメージを持つことを指摘した。以上の考察により、基本の方向義と、「完了」や「経験」を表す結果義の間には共通性があるということと、方向補語構造が表す各意味の派生規則も明らかにした。

第6章では、複合方向補語の目的語の位置について考察した。まず、複合方向補語とその目的語の語順を三種類に分け、その上で多くの実例を考察・分析した結果、この三種類の複合方向補語構造の意味的相違と統語的相違を明らかにした。

第7章では、本論文の研究成果をまとめ、今後の研究課題を示した。

## 審査結果の要旨

陳瑩氏の論文は、基本的な統語構造の一つである方向補語構造を考察対象とする研究である。中国語の動補構造に関する先行研究は膨大な数が存在するものの、陳氏の論文のように、方向補語構造の各文成分に含意される意味特徴、各種意味機能の間の関連性、意味的に近い方向補語構造の使い分けの制約要因、一部の方向補語構造の統語規則を体系的に考察する研究は稀少であった。

考察と分析の結果、以下の研究成果が得られたことは評価に値する。

1) “～下”と場所名詞の共起状況を考察し、その中の場所目的語が指示する場所が移動経路における高い所として捉えられると、〈+過程性〉・〈-限界性〉という意味特徴を示すが、その場所目的語が指示する場所が移動経路における低い所として捉えられると、〈-過程性〉・〈+限界性〉という意味特徴を示す、ということを意味論の立場から解明した。

2) 「開始」を表す方向補語“～开(来)”と“～起来”の使い分けの制約要因を意味論の立場から解明した。“～开(来)”は、「多方向」と「拡散」を含意し、「移動の開始」を表すのに対し、“～起来”は「一方向」と「加速」を含意し、「変化の開始」を表す。また、非移動動詞の場合、両者が表す開始の時点が異なることを明らかにした。

3) 結果義を表す“～上”は〈+接触〉という意味特徴を際立たせ、“～下”は〈+落下〉という意味特徴を際立たせ、両者の動作の構成は認知的に逆順であることを指摘した。

4) 「空間移転」を表す場合、“～上去”は事物の一部分・副次の部分が、主要な部分と接触、付着することを表すのに対し、“～起来”は2つの事物がつながり、合併することを表すことを提起し、大量の例文の分析をもとに詳しく論証した。

5) 「状態変化」を表す場合、“～上去”はある状態または程度に達することを表し、“～起来”は人又は事物が新たな状態に入ることを表し、「開始」を含意するということを提起し、大量の例文の分析をもとに詳しく論証した。

6) “～过”が表す各意味の共通性と関連性を認知的視点から説明した。“～过”の時間的用法である「完了」義と「経験」義は、「あの時」と「この時」という時間的要素を仕切る心理的境界線によって関連づけられるということを明らかにした。

7) 複合方向補語とその目的語の位置関係を三種類に分けた上で、各種類の複合方向補語構造の統語的相違を意味論の立場から解明した。

中国語の方向補語構造に関する様々な未解決の意味論的、統語論的問題について、陳氏の論文は一貫して意味論の立場から体系的に考察しており、これは従来の先行研究に欠けていた姿勢である。また、その研究成果は複数の文法現象を解釈するのに有効であり、非中国語母語話者の方向補語構造の習得に対して実用性が高く、大いに参考になるものと考えられる。

なお本論文の第4章は、『中国語文法研究』所収の論文として一定の評価を得た内容に基づき、加筆及び再構成を行ったものである。

以上から本論文審査委員会は、当論文が博士論文として十分な水準に達していること、また言語学固有の分野に関する内容の論文であることから、博士（文学）の学位を授与するに値するものであると結論づけた。